

令和 4 年度第 1 回 男女共同参画推進会議 議事要旨

日時:令和 5 年 2 月 28 日 14:00～15:40

場所:土岐市役所

	【会議名称の変更について】
事務局	今回から名称を土岐市男女共同参画推進会議に変更して開催する。 土岐市男女共同参画懇話会設置要綱の所掌事務として、基本計画策定に関する助言があった。推進会議では、その助言ではなく地域の実情にあった計画づくりを行うため、会議の中で計画について議論し、計画に反映させる必要があることから今回の変更となった。会の名称自体は変更となったが、推進会議の委員として引き続き協力いただく。
	【委員の交代について】
事務局	新たに委員となった委員 2 名を紹介
	【次期男女共同参画プランについて】
事務局	資料に基づき説明
会長	まず背景となる考え方では、特に新しく出てきたSDGsの中のジェンダー平等について新しく取り上げられている。「誰一人取り残さない」多様性と包摂性、持続可能性に着目し、国際目標として国がやればよいということではなく、それぞれの自治体が福祉を押し上げていくことが求められている。そういった背景の中、今回この土岐市の現状と課題を踏まえた上でどういう施策にするかが求められている。まずは第1章について質問、意見等はあるか。
委員	骨子案3ページ「3計画の期間」で、令和 15 年が 2023 年となっている。
事務局	2033 年の誤りである。
委員	10 年間という計画期間には、何か根拠があるのか。
事務局	第1次、第2次プランに合わせ、次期プランについても、10 年としたいと考えている。だが、長い期間には当然いろいろな動きがあるので必要に応じて見直しをしていく。
委員	SDGsなどはここ数年で出てきた言葉で 10 年前にはなかったと認識している。ジェンダーについても最近話が出てきた。それらの言葉や取り組みの内容は、10 年先にもまたかなり変わってくるのではないかと思う。計画期間が 10 年間というのは非常に長いと思う。途中の変更ができるという付帯条件はよく分からないが、それは必要だと感じている。
会長	18 ページ「⑤性の多様性について」のところに驚きを感じた。ひとつは暮らしやすい社会にするために必要なこととして「パートナーシップ制度の導入」を 29.7%の市民が挙げているがこれは非常に高い。パートナーシップ制度を広めていくことにはもちろん賛成で、それを推進する立場であるが、推進していく時に世間的にはまだ当事者任せの状況がある。当事者が自分のことを言わなくてはいけないのは非常に難しい。こういう課題こそしっかりと検討していく必要がある。 LGBTという言葉の認知度について、小中学生の「まったく知らない」が 49.5%と高い。LGBTを小学生が理解するのはとても難しい。LGBTとは性的指向と性自認の間

	題が混ざった言葉である。だからよく分からなくて勝手に自分で像をつくってしまう、少数者であることを認めるという意味では、LGBT、あるいはQという言葉はとても大事である。SOGIという言葉は、セクシュアル、オリエンテーション、ジェンダー、アイデンティティの頭文字をとった言葉であり、全ての人たちの性はグラデーションであり、ひとりとして同じ性的指向と性自認を持っている人はいないという前提から始まる。そのようにみんな違い、多様性があることを認識し、その中でどういう人たちがいるかという順序で教えていく必要がある。 国際的な動向で、国際目標で達成していく多様性、多様な社会の問題は、まず次の社会をつくっていく子どもたちが理解していくことでようやく社会が変わってくるのではないかと思う。
事務局	パートナーシップ制度の導入など具体的なことについては、時間を要する問題である。これから10年の計画を進めていく中で考えていければと思っている。 男女共同参画プランとは別に、人権施策推進指針を定めているので、照らし合わせながら調整をしていく。
委員	LGBTの人たちが暮らしやすい社会にするために必要なこととして、「幼少期から理解を促進する教育を推進する」が54.8%で、すごく意識が高いと思う。これを貴重な一歩として性の多様性について、男女共同参画の中でもしっかり動き出さないといけないと思う。学校でそういう話は出ているか。
委員	制服問題などの話は具体的にできるが、学校でLGBT等に特化した教育というのはなかなかまだ難しい。そこまではたどり着いていないという感想を持っている。
委員	16ページ、女性の管理職について。多治見市や瑞浪市に比べ、土岐市は女性管理職が少ないと感じた覚えがある。当時は管理職になりたくないという意見が多く進まなかった。土岐市は男性には管理職になるような教育をしているが、女性にはしていないということがはっきりわかった。
委員	社会の仕組みや情勢が男女平等になっても、意識の問題、男性ももちろんだが女性の意識が変わらないと動かないと思う。例えば自信がないとか子育てがあるからとなると、子育てをバックアップするいろんな仕組みが必要だが、一筋縄にはいかない。意識を改革するという意味では10年かかっても地道にやっていくしかないと思う。ただ、行政からのバックアップがあれば徐々に意識は変わっていき、今親になった方々が子どもを教育する場面で、女性も頑張って社会進出をしていくんだという話をすれば子どもの意識も変わっていくのではないか。
委員	意識調査について、回答率が低く、男女共同参画に対して市民の意識が低いのではないかと大変残念に思う。また、事業所の回答率も50%にも達していない。回答率は大体この程度なのか。
事務局	回収率は、市民調査が35.3%、事業所が44.5%であった。回答期間は概ね2週間で、郵送回答とWEB回答を同時に行った。 一般的なアンケート回収率の平均は40%前後である。35%というのは、やや低いが、決してかなり低いというレベルではないと考えている。
委員	初めてパートナーシップ制度というものを聞いた。また、このように議題として考える

	ことも少なく、意見を聞いてとても考えていると感じた。小中学生のLGBTという言葉の認知度について、半分は「まったく知らない」という半面、半分ぐらいは「聞いたことがある、内容を理解している」ことはすごいと思った。これは授業などをされているのか。
委員	LGBTについてピックアップして授業をすることはないが、いわゆる人権感覚を磨くということからこういった内容に触れることは日常的にある話である。社会情勢を反映してLGBTに関する内容を含むものや、障がい者が主人公であるテレビドラマなどを通じて、自然に入ってきているというのもあると思う。
会長	言葉を知っているとそれがかえって偏見に繋がることもある。子どもたちにどういう順番でどう教えていったらいいか様々な研究がされているが、現場にはまだ反映されていない。先生たちは知識としては教えられるが具体的にとまではいかない状況である。当事者に喋ってもらえばいいかといったらそういうものでもない。皆違うというところから、いろいろな人がいるというようにしていくことが好ましい。特にLGBTにターゲットを絞ってしまうのではなく、皆が幸福に生きていくことができるように考えていくと良いと思う。
委員	「パートナーシップ」や「ドメスティック・バイオレンス」、「ジェンダー平等」などカタカナの言葉が多いと思った。そういった言葉で書いてあると理解が曖昧になってしまう気がする。そういった文言をもう少し分かりやすくできるような、何かができたらいいと思う。
会長	22 ページ「4課題の総括」の課題1について、前段はうまく要約されているが、「また、LGBT(性的マイノリティ)への理解など、多様性を認め合える社会の実現に向けて、周知啓発や幼少期からの教育等を進めていく必要があります。」という文章は、この中では教育の充実という言い方になっており、非常に大雑把である。この目標が大雑把だと今後具体策が出てこないと思う。せっかく課題として総括しているのだから、正確に要約してほしい。例えば「多様性」や「ジェンダー平等」という言葉はここに書いてもおかしくないと思う。また、そのためにどうするかということを入れると、漠然としたものにはならないと思う。
会長	25 ページ「プランの施策体系(案)」について、基本目標1(2)「②男女平等教育を推進するための環境整備」というと、具体的にどういうことをイメージしているのか。
事務局	現在やっている取り組みとしては、教職員の研修などである。その他、学校として職場での働き方などが挙げられる。子どもたちにとっては先生が手本となるので、そういったところを整えていくことが必要である。教育委員会とも話をしながら具体的な事業について検討していく。
会長	教育とは具体的にどういう内容をどういう教材でどう伝えるのかということが重要である。土岐市の子どもたちへ幼少期から理解を促すため、わかりやすい言葉で示すべきである。先生たちに理解してもらい、先生たちがわかるということがすごく大事だが、まったくわからない方が大勢いる。その人たちも知りたくないわけではないはずなので、教材を作って知る機会を提供するなど具体的に考えると、取り組むべきことが見えてくると思う。

委員	生活環境課では、幼稚園の子どもたちにSDGsについてまずゴミを減らそうという紙芝居をしていた。以前私が関係していた学校給食では、「学校給食でいただいたものは全部食べましょう」「ゴミを出さないようにしましょう」という教育を1時間程度、各クラスでやってきて、とても良い取り組みだと思った。市の中でも生活環境課がそういった取り組みをしているので広げていただけると良い。
会長	基本目標2(3)②「女性の視点を取り入れた防災活動の推進」について、避難所では誰一人取り残さない視点での防災活動が必要である。災害時には話題になることも、日頃からきちんとやるということが大事である。もう少し具体的に何を推進しようとしているのかを明確にする必要があると思う。他の自治体ではどのようにしているのかも調べて、土岐市はこれをやろうとなれば、市民にとっての安心につながる。
委員	基本目標2(3)「地域における男女共同参画の推進」について、地域で「女性の会」があるが、当初は「婦人会」という名前で、それが変わって「女性の会」になった。女性の会があること自体がどうなのかと時々思うことがある。内容としては特に女性でなくてはならない内容ではない。急に変わることは難しいが、意識として少しずつ変えていくといいと思う。
委員	基本目標2(3)①「男女共同参画を推進する人・団体の育成」について、青年会議所で活動しているが、女性会員が大変少ない。女性ならではの意見を取り入れたまちづくり運動もこれからやっていかなければいけないと感じている。団体の育成という部分にすごく期待していて、推進していかなければならないと思っている。
委員	世間に出ると女性は必要ないなど、難しいことを言う男性がまだまだたくさんいるので、実際には日本もまだまだという感じがしてしまう。だが、学校や市役所に来ると全然そういうことは関係ない。少しずつ、時間をかけていくしかないと思っている。
委員	基本目標3(1)①「多様な働き方の促進」について、まだ具体的ではないので、ここだけ見ると男女共同参画の視点から見てピンと来ない部分がある。 基本目標1(2)①「学校等の教育における男女共同参画教育の充実」について、学校というところは極めて男女の平等性というのが担保されていると学校にいながら思っている。単純な話であるが、ジャージの話、制服の話、色が今までと違ったものが一緒にあったり、呼称は「くんさん」じゃなくて「さん」付けをするようになったり、極めて男女平等な空間であると思っている。 LGBTの問題でも単体ではなかなかないが、一人ひとりを大事にするという指摘から、実際に市内でもかなり制服が変わった。そういうことが受け入れられる場所であると感じている。
委員	ここの全てが絵に描いた餅にならないようにするのに、本当に10年で足りるのかと思う。小さなものでもいいから気が付いたところからすくい上げていくしかないと思う。
	【その他】
事務局	次回の推進会議の予定について説明
	終了